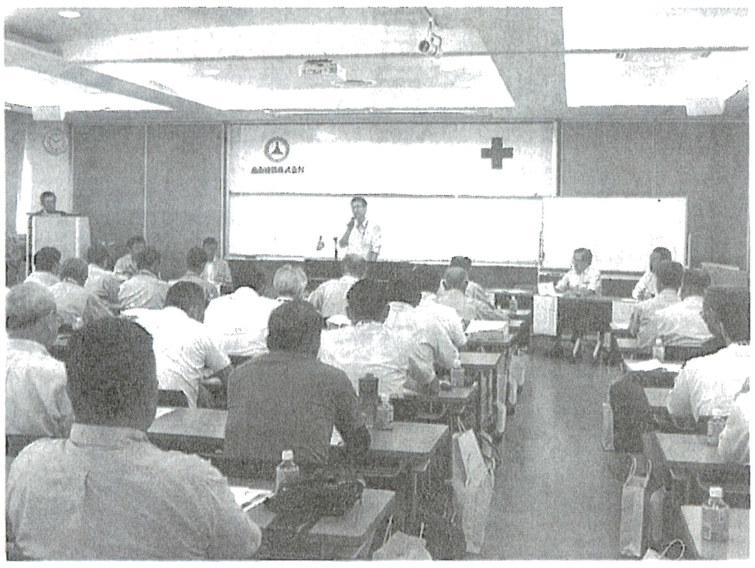
千葉 全県版
©日本建設新聞社（令和元年）（昭和41年11月18日 第3種郵便物認可）
日刊（日、月、祝翌日休刊）
日刊建設新聞
The Nikkan Kensetsu Shimbun
8月6日 火曜日
2019年 第13207号
発行所 日本建設新聞社
千葉市中央区新田町5-10
電話043－203－8171
FAX043－203－6658

「健康第一で安全第一」

畠山建設が大会開く

畠山建設（習志野市、森元一隆代表取締役）と、その協力会社で構成する「畠山会」の安全衛生協議会（武田修治会長・進栄）による2019年度の安全大会が2日、同市の習志野商工会議所で開かれた（写真）。当日は約90人が出席し、参加者一人一人が無事故無災害に向け、安全第一に努めることへの思いを新たにした。



森元代表

大会の冒頭、同社の安全衛生管理推進委員長も務める森元代表が、令和最初の大会であるものの、これまでの活動は変わらないとし、現場での安全に対する取り組みを承継する考えを示しながら、協力会員にも適用できる任意労災保険が適用されることのないよう祈るとともに、現場ごとに掲げられている「安全第一」も、作業者一人一人の「健康第一」があってこそだとし、猛暑の時期を迎え、それぞれの体調を気遣うよう求めた。

続けて安全衛生協議会の武田会長も登壇。梅雨が明け、体が暑さに慣れ切らないうち「自分だけ休む訳には」と無理をして熱中症になってしまう状況に釘を刺し、休憩と水分を多めに取りながら、気兼ねなく休める状況にしてほしいとし、まだまだ続く暑さへの対策を呼び掛けた。

武田会長

安全管理に向けては、船橋労働基準監督署から小菅拓也副署長が講話。今年に入って同管内で発生した死亡災害の状況について説明するなどしながら「当たり前のことが鈍感になってしまう」ことの危険性を指摘。けがをして悲しむのは自分だけではないと話せば、畠山建設を代表して鶴岡真之氏が安全宣言。同大会を契機にさらなる安全対策に取り組み、重大災害を撲滅し、無事故無災害達成へ相互に協力を惜しまず、安全第一を心掛けることを力強く誓った。

「平成のジョー」も講演

安全大会ではこのほか「熱をもって接すれば、熱をもってかえってくる」と題し、児童養護施設の出身で「平成のジョー」とも呼ばれた、元ボクシング日本ライト級チャンピオンで、現在はSRSボクシングジム会長を務める坂本博之氏を招いた基調講演も開かれた。氏は自身の経歴などを交えながら、児童施設への支援を続ける活動に対する思いを述べるなどした。

元プロボクサー・坂本氏が講演

■畠山建設・安全衛生方針

▽労働災害ゼロを目指し、社内・現場においてあらゆる危険有害要因を排除するため、従業員全員参加の下に安全衛生活動の取り組みに努める

▽労働安全衛生法をはじめ、関係する法令を遵守するとともに、会社で定めた労働安全衛生管理基準に基づき、従業員の安全衛生を確保する

▽従業員の疲労やストレスを軽減できるよう、快適な職場環境の形成を促進する

■畠山建設・2019年度安全衛生目標

▽事故が発生する可能性を察知できる能力を培う

▽いかなる時も、不安全状態を作らない、作らせない。不安全行動をしない、させない

▽整理・整頓・清潔・清掃・躾（5S）を徹底する

▽報告・連絡・相談を徹底する